

師走のきせし

十二月のことを和名で師走(しわす)、極月(ごくづき)、雪見月(ゆきみづき)等といいますが、一年を振り返ってみると、いろいろな自然災害や事故事件がありました。しかしながら当山では、明るく希望に満ちた一年でした。長年懸案の本堂客殿新築工事が檀家総意で決定されました。数年先の完成になるかと思いましたがたいへん楽しみです。

十二月三十一日除夜の鐘

夜を除くと書きますが、夜とはやみのことであり、煩惱のこともあります。この一年を顧みて反省し、新年からまた新たな気持ちで出発するのです。百八つの鐘の音は、百八の煩惱を意味します。

仏教で、「根本煩惱」といわれるのは、貪・瞋・痴・悪見・疑・慢の六種の煩惱である。貪瞋痴の三つは、人間という存在に根ざす根本の煩惱と見られ、特に「三毒」とも呼ばれます。

十八歳と八十一歳の違い

- ① 道路を暴走するのが十八歳、逆走するのが八十一歳
- ② 心がもろいのが十八歳、骨がもろいのが八十一歳
- ③ 偏差値が気になるのが十八歳、血糖値が気になるのが八十一歳
- ④ 進学か就職かで迷っているのが十八歳、道に迷って家に帰れないのが八十一歳
- ⑤ 受験戦争を戦っているのが十八歳、健康診断で戦っているのが八十一歳

殺生(せつしょう)

「そんな殺生な!」とは、無理無体なことを強要されそうな時に口にする言葉である。

そこでの「殺生」は、むごいこと、残酷なこと、またそのさまを言う。

「殺生」の原義は、仏教語で生き物を殺すことで、十悪の一つである。

日常的習慣として、身につけるべき五戒「不殺生、不偷盗、不邪淫、不妄語、不飲酒」の筆頭にも挙げられる。

仏教が生んだ日本語

努力し続けられることが才能なのだ!

- ⑥ 恋に溺れるのが十八歳、お風呂で溺れるのが八十一歳

- ⑦ 自分の将来が分からないのが十八歳、自分が誰だかわからないのが八十一歳

- ⑧ 未だ何も知らないのが十八歳、もう、何も覚えていないのが八十一歳

- ⑨ 東京オリンピックに出たいと思うのが十八歳、オリンピックまで生きていたいと思うのが八十一歳

- ⑩ 進学先で悩んでいるのが十八歳、ボケに悩んでいるのが八十一歳

- ⑪ 自分探しの旅をしているのが十八歳、出かけたまま分らず皆が探すのが八十一歳

空海の言集 シリーズ

めいしよう えんじ ぬす
鳴鐘を掩耳に偷む

「十住心論」

釣鐘を盗んで耳をふさぐ間抜け、

月夜に泥棒が、素晴らしい音色の釣鐘を盗み、秘かに運んでいました。

ところが、途中まで来たとき、遠くの鐘が鳴ると、盗んだその鐘が共鳴して鳴り出したのです。泥棒は、思わず耳を掩って、しゃがみ込んだと言ったことなのです。

弘法さんは、このような偽善の行動を、月夜に鐘を盗んだ泥棒にたとえて、厳しく批難されているのです。

